

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[25]歳、勤続年数[1.5]年、現場経験年数[1]年、階級[消防士]、同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	隊員	三連梯子にて屋根部分に登る	
経過2	機関員	放水始めの合図を待たず放水（予備注水）	
経過3	隊員	放水の反動力で後部に引っ張られ転倒	
経過4	機関員	無線を受け放水停止	
経過5	隊員	危険との隊長の指示で屋根から下りる	
経過6	隊長	梯子車を要請し梯子車にて放水活動実施	
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

足元の安全が確保できていなかった。他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。その他：転落しそうになったが事故には繋がらなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

高所作業の際はいち早く自己確保を取るとともに、全ての活動内容は全隊員に周知させるようにしています。

○装備・資機材の対策について

個人の身を守るもので不足している物は隊員個人で買い揃え、現場活動に活かしています。

○活動環境の対策について

人員が削減されているため一台の車両に乗車する隊員数は減りましたが、隊員一人一人の能力向上に努めることで、現場活動に支障のないよう心掛けています。

○指揮・情報伝達の対策について

今年度から指揮隊が運用されることとなり、現場状況の把握や安全管理など幅広い視点で現場を掌握することが出来るようになりました。

